

# 第 53 回インナーゼミナール大会

## 研究計画書

ゼミ名	寺尾ゼミ	チーム名	寺尾ゼミ 20 期生
タイトル	行動力、人との比較、そして幸せ。		
テーマ群	a)理論・情報 g)その他		
メンバー	久保 勇大・中田 優人・平井 悠登・足立 拓海・生田 花恋・岩崎 雅久・大平 直輝・河岡 鷹一郎・小西 喜士・白川 大智・高田 輝・中村 龍希・永塩 里佳・西尾 慶太・萩原 大稀・濱岡 駿太郎・細谷 実祐・宮城 杏菜・安川 洸貴・山下 晃汰・山本 康平		
研究計画内容	<p><b>【研究の背景と目的】</b></p> <p>人生における最上位の目的が「幸せ」であることを否定する人は、ほとんどいないであろう。「幸福の経済学」の先行研究によれば、人々の幸福感（「自身がどの程度幸福であると感じているか」ということに関する自己評価）に影響を与える要因は、(1) 理想と現実との「距離」（理想として想定される状況と現実との差）(2) 幸福の「持続可能性」（幸福感が将来において上がると期待されること）(3) 他者との関係性（「人並みである」と感じられること）の3つに大別される。このことをふまえて、このたび私たちは、「幸せ」の要因としての「行動力」と「他者との比較」に着目して、それらが「幸せ」に及ぼす影響を明らかにするとともに、「幸せに関する（新たな）常識」を提供することを目指す。</p> <p><b>【研究の対象と方法】</b></p> <p>上で述べたように、このたび私たちが着目するのは、「幸せ」の要因としての「行動力」と「他者との比較」が「幸せ」に及ぼす影響である。ここで、「行動力」と「他者との比較」に共通するのは、「幸せ」は客観的な（数値的な）計測が困難であるのに対して、「行動力」や「他者との比較」は、相対的にはあるものの、客観的な（数値的な）計測が可能であるということである。これらのことをふまえて、私たちは、(1)「行動力」が「幸せ」に及ぼす影響 (2)「人との比較」が「幸せ」に及ぼす影響 (3)「人との比較」によって「行動力」が「幸せ」に及ぼす影響 に焦点を当てた分析を行う。その際の主題は、「幸せそのものは、お金を払って買うことはできない。しかし、幸せに影響する要因は、金銭的あるいは非金銭的な代価を支払うことによって入手可能である」というものである。</p> <p><b>【期待される成果】</b></p> <p>「幸せそのものは、お金を払って買うことはできない。しかしながら、幸せに影響する要因は、金銭的あるいは非金銭的な代価を支払うならば入手可能である」ということは、「幸せには市場が存在しないが、幸せに影響する要因には、広い意味での市場が存在する」ということを意味する。このことをふまえて、私たちは、「幸せ」の要因としての「行動力」と「他者との比較」が「幸せ」に及ぼす影響を明らかにして、「幸せ」の必要条件を導き出すこととしたい。すなわち、このたび私たちは、(1)「幸せ」になるためには必ず備えなければならない「行動力」および (2)「幸せ」になるために有益な「人との比較」ならびに「幸せ」にとって有害な「人との比較」を明らかにして、最終的には、「これをやらずに幸せになることはありえないこと」についてのリストを作成・提示して、「幸せに関する（新たな）常識」を提供したい。</p>		